

令和 2 年 9 月 15 日現在

機関番号：87105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04486

研究課題名(和文) 若年性認知症の認知機能低下率に関する後方観察研究

研究課題名(英文) The retrospective observational study about cognitive functions of the juvenile cognitive dysfunction diseases.

研究代表者

山本 政弘 (Yamamoto, Masahiro)

独立行政法人国立病院機構九州医療センター(臨床研究センター)・AIDS/HIV総合治療センター・部長

研究者番号：10220500

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は若年性認知症の原因となるHIV感染症、気分障害、物質使用を比較し特徴を明らかにすることを目的とした多施設共同研究である。HIV感染者(n=136,年齢40.4±10.8)では23%に認知機能の低下を認め、WMが他の群指数に比して有意に低下していた。下位検査では算数、完成、符号などで低下が認められた。一方、物質依存患者(n=20,年齢40.8±8.2)では各群指数とも著明に低下しており、特に下位検査で配列、符号、記号がHIV感染者より有意に低下していた。気分障害患者(n=44,年齢40.8±15)では二者の間であり、下位検査ではHIV感染者より符号にて有意に低下していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国は高齢化に伴い老年性認知症の問題が大きくなってきているが、老年性認知症と鑑別が必要な若年性の認知障害についてはそれぞれの疾患における特徴の解析も不十分なこともあり、対応が遅れている。本研究では多施設共同にて昨今若年性の認知症を引き起こすことで問題となっているHIV感染症およびうつなどの気分障害、物質依存症におけるそれぞれの認知機能低下の特徴を解析した。その結果それぞれに認知機能低下の特徴があることが判明し、今後若年者の認知機能障害に置いて原因疾患の鑑別診断を行う上で有用となるだけでなく、それぞれの対応策を講じる上で極めて有用な知見と言える。

研究成果の概要(英文)：In this multicenter study we compared the characters of diseases which causes juvenile cognitive disorder such as HIV infection, mood disorders, and substance addiction. 23% of HIV-infected patients (n=136, age 40.4+/-10.8) revealed the decrease of the cognitive function, and the reduction in each index score except "WM" was not obvious. The sub tests of "arithmetic", "picture completion", and "digit symbol" were decreased, but not significant. As compared with it patients with substance addiction (n=20, age 40.8+/-8.2) showed remarkable decrease of the each index score, and in particularly "picture arrangement", "digit symbol" and "symbol search" of the sub tests significantly decreased. Patients with mood disorders (n = 44, age 40.8+/-15) were the intermediate degree between the two patients groups but a significant decrease was found in "digit symbol" by the sub test.

研究分野：内科、感染症

キーワード：若年性認知症 HIV感染症 気分障害 物質依存症

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、若年性認知症施策の強化が謳われているが、罹患患者の54%に認知機能障害が報告されたHIV感染症は触れられていない。さらに、HIV感染症に関連した認知機能障害は除外診断であるため精神疾患との鑑別が不可欠である。本研究では、本邦のHIV感染症患者における若年性認知症の実態を気分障害、物質使用歴との相違を含めて明らかにする。

2. 研究の目的

若年性認知症の要因の一つであるHIV感染症患者の、認知機能低下と関連する要因および特徴を明らかにし、他の若年性認知症とHIV感染症患者の認知症の鑑別診断および治療・支援に結びつけることである。

2. 研究の方法

HIV感染症患者および気分障害患者、精神作用物質使用患者において日本語版ウェクスラー成人知能検査(WAIS-)を用いた認知機能検査を施行、同時に患者情報、診療情報を収集した。WAIS-の結果について粗点を基に評価を行い、評価点ならびにTスコアを算出する。知能指数(IQ)、群指数、下位検査評価点、Tスコア、および患者情報、診療情報をもとに疾患ごとの特徴、認知機能低下の増悪因子の解析を行い、診断的特徴や関連する因子を検討した。

4. 研究成果

本研究は若年性認知症の原因となるHIV感染、気分障害、物質使用を比較し特徴を明らかにすることを目的とした多施設共同研究である。HIV感染者(n=136,年齢 40.4 ± 10.8)では23%に認知機能の低下を認め、WMが他の群指数に比して有意に低下していた。下位検査では算数、完成、符号などで低下が認められたが有意ではなかった。一方、物質依存患者(n=20,年齢 40.8 ± 8.2)では各群指数とも著明に低下しており、特に下位検査で配列、符号、記号がHIV感染者より有意に低下していた。気分障害患者(n=44,年齢 40.8 ± 15)は二者の間であり、HIV感染者より下位検査で符号にて有意に低下していた。(図1、図2)

我が国は高齢化に伴い老年性認知症の問題が大きくなってきているが、老年性認知症と鑑別が必要な若年性の認知障害についてはそれぞれの疾患における特徴の解析も不十分なこともあり、対応が遅れている。本研究では多施設共同にて昨今若年性の認知症を引き起こすことで問題となっているHIV感染症およびうつなどの気分障害、物質依存症におけるそれぞれの認知機能低下の特徴を解析した。その結果それぞれに認知機能低下の特徴があることが判明し、今後若年者の認知機能障害に置いて原因疾患の鑑別診断を行う上で有用となるだけでなく、それぞれの対応策を講じる上で極めて有用な知見と言える。

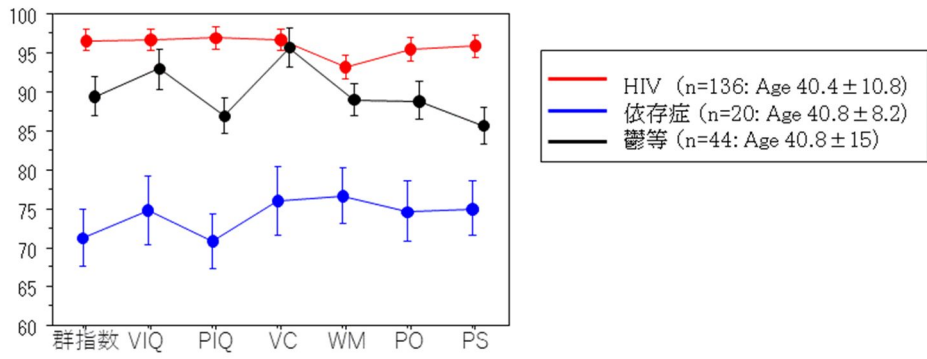


図1

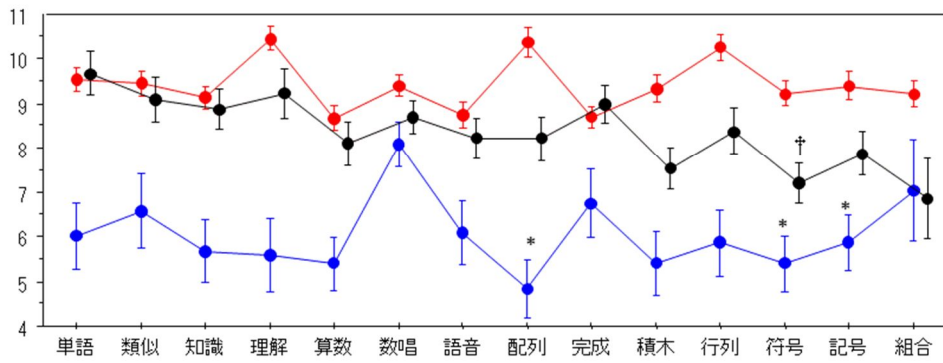


図2

* HIV vs. 依存症(配列 $p=0.0134$, 符号 $p=0.0040$, 記号 $p=0.0020$)
 † HIV vs. 鬱等 (符号 $p=0.0108$) いずれもBonferroni/Dann法

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 辻 麻理子
2. 発表標題 服薬マネジメント成功のコツ~心理検査活用術~
3. 学会等名 第28回日本医療薬学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂本 麻衣子
2. 発表標題 HIV 陽性者の認知機能低下率と関連因子ーその1 -
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻 麻理子
2. 発表標題 HIV 陽性者の認知機能低下率と関連因子ーその2 -
3. 学会等名 第32回日本エイズ学会学術集会・総会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	辻 麻理子 (Tsuji Mariko) (00569840)	独立行政法人国立病院機構九州医療センター（臨床研究センター）・その他部局等・心理療法士室長 (87105)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	天野 昌太郎 (Amano Shoutarou) (60576411)	独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター（臨床研究部）・臨床研究部・常勤臨床心理士 (87204)	